

2002年度日本エアシステム事業計画（概要）

2002年度の日本エアシステム事業計画では、安全運航の堅持を基本とし、羽田空港発着枠の拡大、成田暫定滑走路の供用開始などの新たな事業チャンスを生かすため、経営資源ならびに事業領域の集中化を図ることで収益力の強化および経営体質の改善を着実に推進することを目標としております。

2002年度の国内線事業計画においては、新たに増加した羽田枠を活用し、地方から東京への往復日帰り可能ダイヤの設定や高需要路線の増便を実施すると共に、低需要路線の見直しを含め需要動向に応じた効率的な路線・便数・運航ダイヤの設定をきめ細かく実施します。国際線においては、成田暫定滑走路の供用開始に合わせ関空から成田に基地集約し、昆明線、香港線を振り替えると共に上海線を新設することで中国路線のネットワークを充実し競争力を高めます。

機材計画につきましては、経年化が進んでいるA300-B2/B4型機を3機退役させ、A300-600型機を新たに3機導入し、コスト低減と機材競争力の強化を図ります。

また、本計画は関係官庁の許認可取得および各空港の発着調整結果を受けた上で実施いたします。

下期路線計画は、日本航空との経営統合が関係官庁より承認を得られた後に改めて検討することとしております。なお、関西空港の今後の活用についても、経営統合後の事業計画にて改めて検討することといたします。

1. 路線便数計画

(1) 国内線

- 羽田空港発着枠の増加を活用し、地方から東京への往復日帰り可能ダイヤの設定および高需要路線の増便等を計画します。これにより、利用者利便の向上と営業競争力の強化を図ります。
- 関空路線の見直しを行い、他社競合路線の運休（7月）を実施すると共に、固定費の削減を図るため地上支援業務を外部委託することとします。

<増便計画路線>

路線	便数	実施時期	備考
1 羽田～長崎	3→4便	7月	ナイトステイ便
2 羽田～青森	5→6便	〃	ナイトステイ便
3 羽田～熊本	4→5便	〃	
4 羽田～高松	4→5便	〃	
5 羽田～出雲	4→5便	〃	
6 羽田～北九州	3→4便	〃	
7 羽田～旭川	5→6便	〃	夏期のみ
8 羽田～女満別	3→4便	〃	夏期のみ

(2) 国際線

- 成田暫定滑走路の供用開始に合わせ関空から成田に基地集約し、昆明線、香港線を振り替えると共に上海線を新設することにより中国路線のネットワークを充実し競争力を高めます。
- 新規・増便路線の計画は次のとおりです。

	路線	便数	時期	備考
新設	成田～昆明	週2便	4/3～	
	成田～上海	週7便	4/18～	
再開	成田～香港	週7便	4/18～	
増便	成田～広州	週2→6便	4/18～	3/31～4/17は週5便
	成田～西安	週2→4便	4/18～	3/31～4/17は運休

2. 機材計画

- ① 経年化が進んでいるA300-B2/B4型機を3機退役させ、A300-600型機を新たに3機導入し、コスト低減と機材競争力の強化を図ります。
- ② グループ全体の路線・便数の見直しや機材の効率的運用により、本計画での増機は予定せず、現行85機体制を維持する中で効率的事業運営を行うことにより収益の最大化を図ります。

以 上